

# 吉田中学校 1学期学校評価まとめ

## 教育目標 「かかわり みつめ 切り拓く生徒」

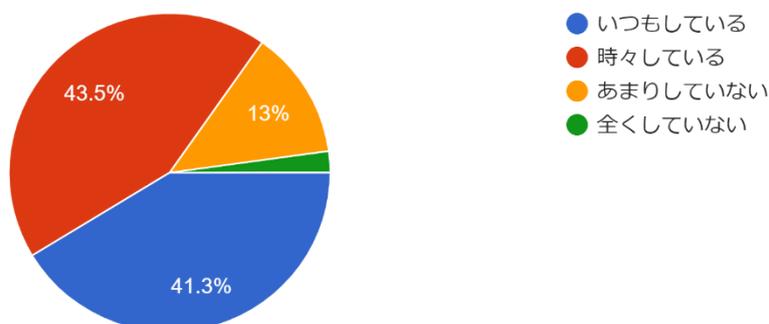
当校が見据える最終的な目標は「ふるさと吉田を愛し自立して社会で生きる人」の育成です。この目標の実現に向けて、キャリア教育を基盤に位置付け、地域と連携した小中一貫教育により様々な教育活動を展開しています。これからの時代の「創り手」である子どもの教育には、現状を維持するのではなく、新しい価値や考え方を生み出し、予測不能な社会を生き抜く力を身に付けさせることが必要だと考えます。

また、変わりなく大事にするものを、「知育」・「徳育」・「体育」の三本柱とし、保護者、地域住民の理解と協力を得ながら教職員一丸となって取り組んでいます。アンケート等により結果を分析・評価し、今後の教育活動の修正と改善について提言します。

## キャリア教育の視点から

### 9-1 生活や学習で、見通しをもって計画的に進めていますか。（計画立案・実行する力）

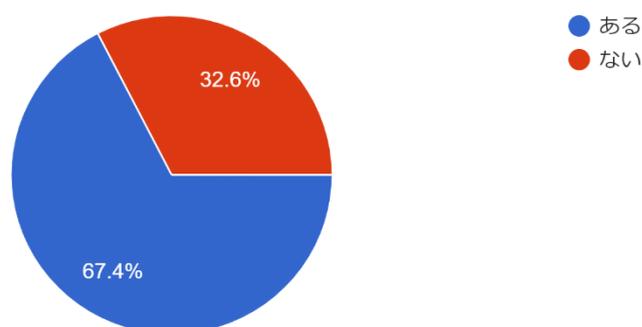
46件の回答



肯定的な回答 84.8%（昨年 81.0%） 毎日の終学活時にPT（プランニングタイム）を設定し、家庭学習や課題学習の計画を立てる時間を確保しています。引き続き、指導支援を継続します。

### 11 自分の将来について、具体的な夢や目標がありますか。

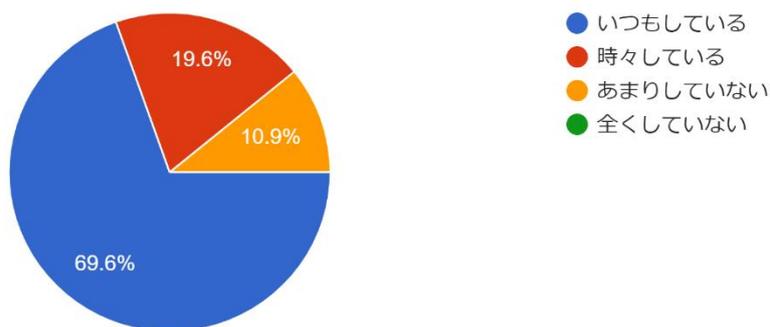
46件の回答



肯定的な回答 67.4%（昨年 76.0%） 教育活動全体を通して、学年の実態に応じて進路学習を中心に、役割（キャリア）や責任を担うことなどについて学習していきます。

### 13 地域のよさを理解し、愛着や感謝の気持ちをもっている。

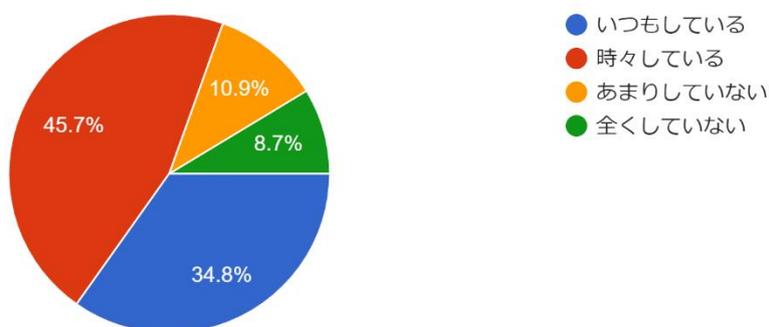
46 件の回答



肯定的な回答 89.2% (昨年 95.0%) 昨年比約 6 ポイント下げてしまいましたが、「いつもしている」生徒が 7 割いることを誇りに思います。引き続き、地域行事等への参加を奨励していきます。

### 15 自分のできることで、地域に貢献しようとしている。

46 件の回答

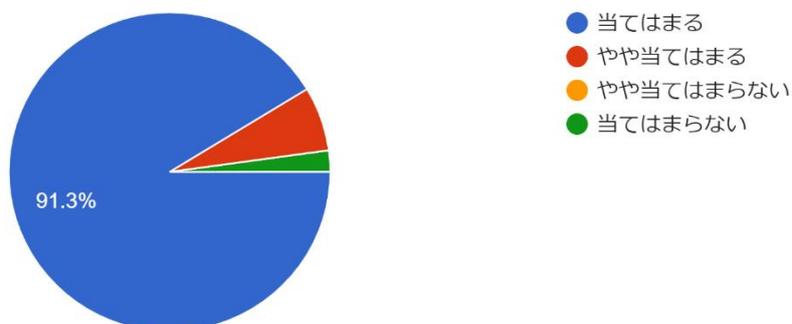


肯定的な回答 80.5% (昨年 87.0%) 肯定的な回答、特に「いつもしている」の回答がやや低い結果となりました。学校運営協議会等と協働し、地域と学校が Win-Win の関係になるよう一層、取組を推進し、生徒が地域に貢献したいと思えるような取組を工夫します。

## いじめについて

### 9 いじめは、どんなことがあっても許さない。

46 件の回答



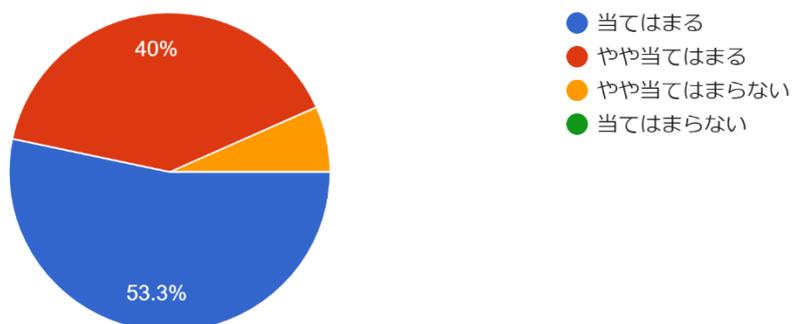
肯定的な回答 97.8% (昨年 100%) 1 学期いじめ認知件数 2 件

警察(サポートセンター)によるインターネット利用講習や生徒会によるいじめ見逃しゼロスクール集会等、実施内容をアップデートしながらいじめ防止の取組を推進しています。いじめは深刻な人権侵害という認識のもと、2 学期は、人権教育、同和教育を充実させます。

## 保護者アンケートから

2 学校は、保護者や地域の願い・要望を受け止め、誠意をもって対応している。

45件の回答

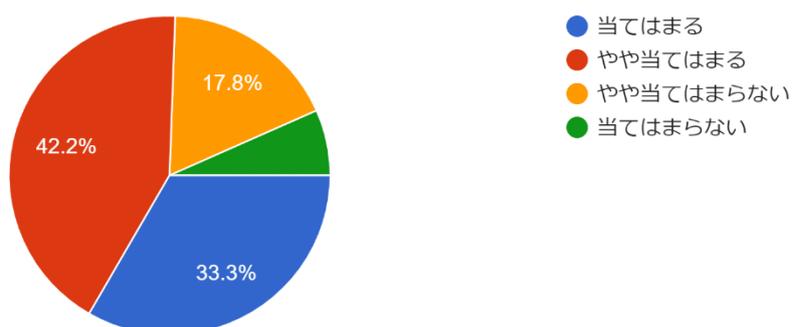


肯定的な回答 93.3% (昨年 100%) 昨年に引き続き、高評価をいただきました。今後も、個に応じた指導や保護者面談等を通じ、一人一人に寄り添った指導支援を行います。

12

インターネットメディアの利用について、約束や...設定し、それを守るように家族で話をしている。

45件の回答

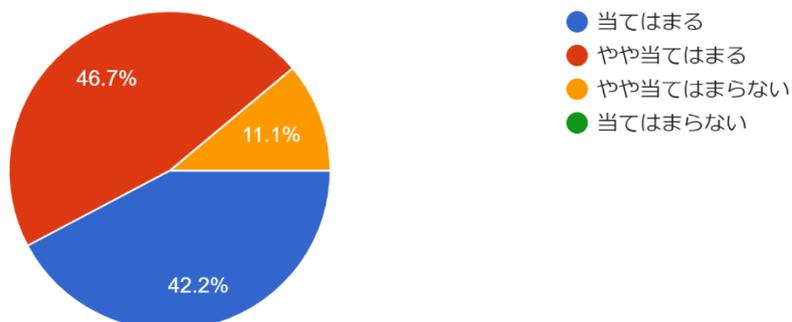


肯定的な回答 75.5% (参考：昨年「わが家のメディアルール」についての取組 54.2%)

質問項目を、新たに「・・家族で話をしている」と変更しました。今後は、基本的な生活習慣の見直しと、睡眠時間確保の視点からメディアの利用について考えていきます。

14 学校は小中一貫教育において、保護者・地域住民と一体となった活動に努めていますか。

45件の回答



肯定的な回答 88.9% (昨年 97.9%) 中学校区教育振興会「知」・「徳」・「体」部会を中心に、引き続き、吉田地区の生徒の望ましい育ちや学びの連続性について一層研修を深めます。

※配付文書のデジタル化は、大多数がデータ配信と紙媒体の配付の継続を希望するという意向でした。

## 学校評価【知部会】 1学期の振り返り

### 1 各種アンケート等から見た一次評価

成果目標	結果及び評価
①学力の一層の定着 数値目標＝「NRT の教科平均値が前年度を上まわった生徒」70%以上	結果 25.0%（1年生は除く） 2年生（20人中5人 25%） 3年生（12人中3人 25%） 評価 現3年生は昨年度も42%程度であったので、数値目標を見直す必要がある。50%以上か。教科別で見ると、理英は6割、国数社は3割程度の生徒が前年度を上回っている。
②目的をもった計画的な学びの実現 数値目標＝「家庭学習を計画的に進めている」肯定的回答80%以上	結果 91.3%（昨年度 80.4%） 当てはまる 39.1%、やや当てはまる 52.2% 評価 肯定的な回答が多い。 割合としては1・2年生に肯定的回答が多く見られる。
③学ぶ姿勢の定着 数値目標＝「好きな授業、得意な教科がある」肯定的回答80%以上	結果 97.8%（昨年度 91.3%） 当てはまる 84.8%、やや当てはまる 13.0% 評価 肯定的な回答が非常に多かった。 教科としては保体・理科が多い。

### 2 取組から見た一次評価

取 組	結果及び評価（生徒の変容等）
①プランニングタイム	結果 フォーサイトの記入はできている。 評価 学習内容も充実するように実施できると尚よい。
②Web 診断問題	結果 全国平均に比べて以下のとおり 国語 1年+1.9 2年+0.1 3年-0.6 数学 1年-0.3 2年 0.0 3年-0.3 英語 1年なし 2年-0.5 3年-1.2 評価 引き続き実施・継続をしていく。
③宿題（自主学習）について 各教科の NRT で課題となっている分野・内容の宿題の提示	結果 NRT を意識しているとはいえない。 評価 宿題連絡用ホワイトボードを活用する。

### 3 2学期以降の取組・対策

<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーサイトの活用を継続する。</li> <li>・Web 診断問題の実施と実施結果分析する。（学習の確認テストについても同様に、結果分析と生徒へのフォローを行いたい。）</li> <li>・宿題連絡用ホワイトボードの活用について再確認する。</li> </ul>
--

## 学校評価【徳部会】 1学期の振り返り

### 1 各種アンケート等から見た一次評価

#### 【学校評価アンケート】

成果目標	結果
①交流を通じた自己肯定感の育成 数値目標＝「自分にはよいところがある」【肯定的回答 80%以上】	86.9%（前回 80.4%） 当てはまる 32.6% やや当てはまる 54.3% やや当てはまらない 13% 当てはまらない 0%
②違いをよさと捉える人権感覚の醸成 数値目標＝「仲間のよさや個性を認め、協力し合いながら、学級活動、委員会、部活動に取り組んだ」【肯定的回答 80%以上】	97.8%（前回該当項目なし） 当てはまる 76.1% やや当てはまる 21.7% やや当てはまらない 2.2% 当てはまらない 0%
評価	
①肯定的回答が昨年度を上回った。学習活動を通じて学力が向上したり、生徒会活動を通じてリーダーの経験を積んだりしたことで生徒の自信が高まったことが理由として考えられる。 ②生徒会の取組として、居心地のよい学級づくりを実現するために各学級で小目標（「失敗してもOK」「相手の気持ちを考えた言動をする」など）を立てて学校生活を送ったことで、相手を尊重しようという雰囲気が高まってきている。	

#### 【WEBQU】

観点	1年生	2年生	3年生	全校
学級との関係	96.5%	88.5%	73.5%	86.1% ○
承認感	82.4%	77.4%	72.0%	77.2% △
配慮のスキル	97.2%	92.5%	89.4%	93.0% ○
関わりのスキル	83.0%	79.4%	76.6%	79.6% △
評価				
「わたしはクラスの中で存在感があると思う」「自分の考えがクラスや部全員の意見になることがある」「仲の良いグループの中では中心的なメンバーである」が低い。【承認感】 「班活動で友達が一所懸命やり失敗した時は許している」「友人とケンカしたとき、自分にも悪い所がないか考える」が高い。【配慮のスキル】 「わからないことがあるとき、友人や先生に聞いている」「自分から友人を遊びに誘っている」「係の仕事時、どうやったらいいか意見を言っている」「困ったとき、友人に助けてほしいとお願いしている」が低い。【関わりのスキル】				

## 2 取組から見た一次評価

取組	結果及び評価（生徒の変容等）
①いじめ見逃しゼロスクール集会	<p>結果 生徒の振り返りから、「いじめの構造」など、いじめについての理解が深まった。また、いじめを見逃さない、という意識が高まったことが分かった。</p> <p>評価 ネットを介したトラブルなど、生徒にとって身近な事例について、小中の異年齢集団で話し合い、深く考えることができた。2年生は、初めて学校行事の準備や運営を行い、それらを通して、全校をリードする力が高まった。</p>
②小中合同あいさつ運動	<p>結果 活気のある運動となった。</p> <p>評価 1年生が活動をリードし、小学生と交流しながら元気よくあいさつをすることができた。</p>
③メディア講演会・インターネットメディア使用に関するワークショップ	<p>結果 有意義な会となった。</p> <p>評価 インターネットメディアの適切な使用の仕方について、全校で話し合い活動をしながらか、理解を深めることができた。また、それをもとにして、ICT 使用のルールについて見直しを行い、共通理解を図ることができた。</p>

## 3 2学期以降の取組・対策

<p>○体育祭の準備・練習・本番の過程で、生徒と打合せをこまめに行ったり、進捗状況を確認したりすることで、生徒が自主的に行動し、それぞれの役割を果たすようにする。それにより、生徒が自己肯定感を高めたり、相互の良さや頑張りを認め合ったりできるようにする。</p> <p>○掲示物『話し合いの心得』を学年の教室に掲示する。各授業でのペア活動や班活動、そして学級会などの際に、『話し合いの心得』を意識しながら相互にコミュニケーションを図ることで、関わりのスキルを高め、仲間と良好な人間関係を築けるようにする。</p> <p>○各学年の WEBQU の結果に基づき、各学年の実態に合ったソーシャルスキル・トレーニング（学級ソーシャルスキル CSS より）を以下から選び、学活等で実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『みんなで決めるとはどういうことか』 みんなで決めたルールを守る責任を想像させる。</li> <li>・『ちょっと大人の話の聞き方』 『友情が伝わる話の聞き方のコツ』を参考に、その聞き方を、仲間と関わる際に実践する。これらを通して、困ったときに助け合える信頼関係を築く。</li> <li>・『協力の敵は何か？』 グループ活動がうまくいなくなる行動が何か考える。</li> <li>・『話し合いのマナー講座』 話し合いに臨む際の、望ましい態度や考え、具体的な方策(例：話し方・聞き方・折り合い点の探し方)について学ぶ。</li> <li>・『ちょっと大人の誘い上手』 自分から誘うことの意義に気付かせる。</li> <li>・『困っているときのお願いの仕方』『わからないことがあるときの聞き方』 困ったことやわからないことがあるのは自分だけではないことに気付かせ、抵抗感を取り除き、適切な SOS の出し方を学ばせる。</li> </ul>
---

## 学校評価【体部会】 1学期の振り返り

### 1 各種アンケート等から見た一次評価

成果目標	結果及び評価
①自己管理能力向上 数値目標＝「規則正しい生活を送り、自分の健康管理に努めた」 【肯定的回答 80%以上】	結果 82.6% (昨年 84%) 当てはまる 47.8%、やや当てはまる 34.8% やや当てはまらない 15.2% 当てはまらない 2.2%  評価 全体的には良い結果であった。 否定的回答をした生徒の課題は、メディア機器の使い方と睡眠時間であると考えられる。
②体力の向上 数値目標＝「新体力テストで、総合得点の結果が昨年度を上回った生徒」 【80%以上】	結果 83.8% (昨年 84%) 2年生男女 全体的に記録向上。 3年生男子 大幅に記録伸びた生徒多数。 3年生女子 昨年より記録が下がった。 ※参考 1年生男女 全体的に記録良好。 評価 全体的には良い結果であった一方で、握力・立幅跳・長座体前屈が課題である。2学期以降の体育では、各单元の中に課題克服に向けた運動を取り入れる必要がある。

### 2 取組から見た一次評価

取組	結果及び評価 (生徒の変容等)
①メディア講演会	結果 生徒のメディアに対する意識は高まった。 評価 サポートセンターの専門的な話 (危険性とその対策) と生徒指導部、情報教育部の合同企画による、日常にありがちな事例学習が非常に良かった。
②TKGs プロジェクト (応援団主催)	結果 成果があまり見られない。(3年目) 評価 実施方法の改善が必要。
③全校体育での新体力テストの実施	結果 競争意識が高まり、全体的に記録が伸びた。 評価 記録の向上だけでなく、互いに励ます、教えあう、競い合うという点でも成果が見られた。

### 3 2学期以降の取組・対策

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣 (特に睡眠) に関わる保健指導 (または学活) を実施する。</li> <li>・握力、立ち幅跳び、長座体前屈が課題。各单元の中に課題克服に向けた関連する動きを積極的に取り入れていく。</li> <li>・TKGs プロジェクトの方法の改善。</li> <li>・小中陸上交流会のスムーズで安全な運営。小中の交流を通して、児童生徒が運動・スポーツは「楽しいな」「やってみようかな」と思える時間にしたい。</li> </ul>
---